



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2013年11月18日)

## ポイント

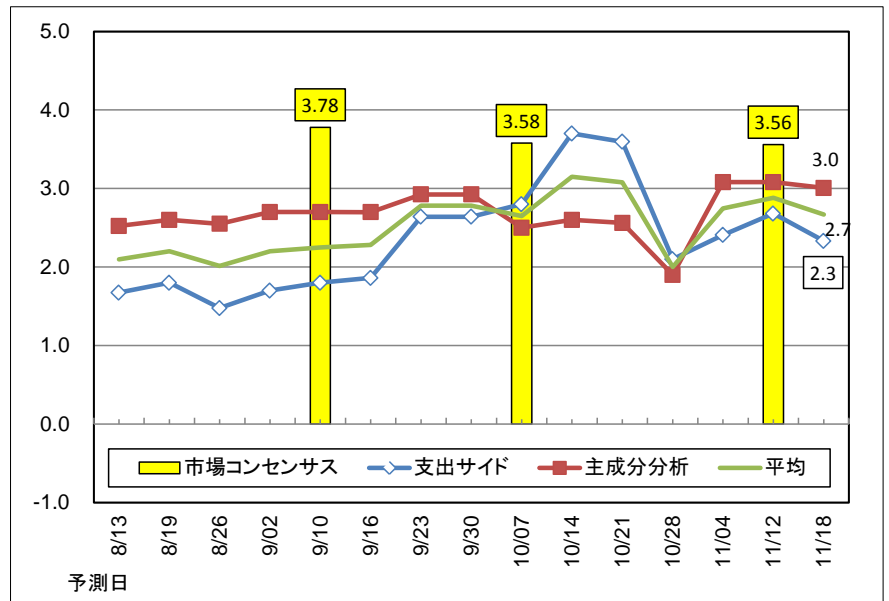
▶先週は、10月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、9月の鉱工業指数(確報値)、3次産業活動指数及び民間機械受注が更新された。加えて、7-9月期GDP1次速報値が発表された。

▶7-9月期の実質GDP成長率は前期比年率+1.9%となった。4期連続のプラスだが、年前半から減速した。

▶結果、実質GDPの水準はリーマン・ショック前のピークを上回った。中身を見ると、公的部門が回復に大きく寄与し、家計部門も前回ピークを上回ったが、企業部門の回復の遅れが目立つ。回復が着実なものとなるためには企業の設備投資が本格化することが必須である。実効性のある成長戦略が必要とされる。

▶今週の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.3%、1-3月期を同+3.8%と予測する。7-9月期は一時的に減速したが、年度後半には再び成長率は加速するであろう。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



### <7-9月期は一時的に減速したが、年度後半には成長率は再び加速>

先週(11/12-11/15)に更新されたデータは、10月の消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、9月の鉱工業指数(確報値)、3次産業活動指数及び民間機械受注である。加えて、7-9月期 GDP1 次速報値が発表された。

11月14日発表の GDP1 次速報値によれば、7-9月期の実質 GDP 成長率は前期比年率+1.9%となり、4期連続のプラス成長を記録した。伸びは年前半(1-3月期同+4.3%、4-6月期同+3.8%)から減速し、市場コンセンサス(ESPフォーキャスト11月調査：同+1.86%)にほぼ一致した。前年同期比では+2.7%と7期連続のプラス成長となり、伸びは前期(+1.1%)から加速した。

結果、7-9月期実質 GDP の水準はリーマン・ショック前のピーク(2008年1-3月期=100)を上回った。回復の中身を見ると、公的部門(政府最終消費支出：109.3、公的固定資本形成：129.9)が回復に大きく寄与していることがわかる。家計部門(民間最終消費支出：105.2、民間住宅：100.2)も前回ピークを上回った。一方、特徴的なのは、企業部門(民間企業設備：84.6、輸出：90.7)の回復の遅れである。今回の回復が着実なものとなるためには企業の中長期的な成長期待が高まることにより設備投資が本格化することが必須である。実効性のある成長戦略が必要とされる。

今週(11/18)の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+2.3%と予測する。内需の寄与は前期から減速するが純輸出のマイナス寄与が縮小するためである。1-3月期は純輸出の寄与は引き続き小幅マイナスとなるが、内需の拡大が加速するため、同+3.8%と予測する。7-9月期は一時的に減速したが、年度後半には成長率は再び加速するであろう。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690